2023.7.25 Vol.62
ISSN 0919-3626
郡山市立美術館ニュース
ザ・ルーフ

THE ROOF

梶田半古《蝶》
1907～12年頃（明治40年代）
岩絵具・絹／二曲一隻屏風　当館蔵

Contents

- 企画展「テレビシリーズ放送開始15周年記念　ひつじのショーン展」
- 企画展「土橋醇展　パリ、湖南―幻想を追って」
- 寄稿「近代版画事始め　～明治に想いを馳せる時～」
- 常設展示室より
- Report
- Information

「ひつじのショーン」© and TM
Aardman Animations Ltd. 2022

AARDMAN

ひつじのショーン™展

テレビシリーズ放送開始 15周年記念

SHAUN THE SHEEP AND SHAUN'S IMAGE ARE ™
AARDMAN ANIMATIONS LTD. 2023

この夏、郡山市立美術館では「ひつじのショーン展」を開催しています。原画や映像、撮影で使われた精巧なアニメーションセットの数々をご覧いただけます。ここでは、アニメ「ひつじのショーン」の舞台裏を少しご紹介しましょう。

「ひつじのショーン」は、プラスティシンという粘土でつくったキャラクターの人形を少しずつ動かしながら、一コマずつ写真として撮影し、それを並べて映像にしています。これは「ストップモーションアニメーション」と呼ばれ、1秒間の映像に25枚の写真が必要です。写真を撮ってほんの少しだけ人形を動かしてまた写真を撮る…というとても細かな作業を延々と繰り返すことで、驚くようなスムーズな動きの映像が生み出されます。一日に作れるアニメーションの長さはたったの6秒！テレビ放映の7分間のおはなしを1本作るのに、なんと70日間もかかる計算になります。「ひつじのショーン」を制作しているアードマン・アニメーションズのスタジオでは、150人ものスタッフが20以上ある牧場などのセットを同時に使って撮影をしています。

アードマン・アニメーションズは、イギリスのブリストルに1976年に設立された世界的なアニメーションの制作会社です。質の高い作品づくりの情熱が認められ、アカデミー賞のアニメーション部門では短編・長編合わせて4度もオスカーを受賞しています。「ひつじのショーン」ができるまでの工程は、撮影までを含めると大きく5つに分けられます。まずは、すべての基本になるストーリーづくり。スタッフみんなでおもしろいアイデアを出し合います。ショーンをはじめとするキャラクターたちは、彼らにとって心の家族のような存在です。ストーリーが決まったら、次にアニメ作りの基本となるストーリーボードと呼ばれる絵を描いていきます。ストーリーボードができたら撮影に使う人形やセットを作ります。「ひつじのショーン」の登場人物のなかでいちばん制作するのに難しいキャラクターは誰でしょう？答えは、表情や動きが複雑、しかも衣装や小道具もたくさん必要で手間がかかる、牧場主。ちなみに牧場主1体つくるのに2か月を要します。「ひつじのショーン」では、家や畑をはじめとするセットや、ちょっとした小道具もじつにリアルに作られています。撮影では、アニメーターがショーンたちに命を吹き込むようにを少しずつ動かしたり、表情をかえたり、それを一コマ一コマカメラマンが撮影します。

ところで、ショーンはもともとアードマンが制作したアニメーション映画『ウォレスとグルミット 危機一髪！』に登場したキャラクターでした。小さくて無邪気な子ひつじショーンが映画のなかで大活躍。それがのちに、いたずら好きで賢く、勇気のあるショーンを主人公としたアニメーションシリーズ「ひつじのショーン」へとつながるのです。

「ひつじのショーン」を生み出すアードマンのスタッフたちが心がけているのは、自分たちがおもしろいと思えるものを作ろうと考えること。自分の心の中にある子どもの心に話しかけながら物語を紡ぐのです。時間をかけ、手間ひまを惜しまず情熱を込めて作られている「ひつじのショーン」。ショーンの原案者であるニック・パークさんはこう言います。「ショーンの世界観が広く受け入れられてとてもうれしい。手わざとユーモアのすばらしさは万国共通です！」

アニメ「ひつじのショーン」のテレビシリーズの放送開始から早くも15年がたちました。世界中で愛され続けている「ひつじのショーン」の魅力を展示室でたっぷりおたのしみください。

（永山多貴子）

企画展

テレビシリーズ放送開始 15 周年記念
ひつじのショーン展
2023 年 8 月 20 日（日）まで

中学生以下
障がい者手帳を
お持ちの方は
無料

開館時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
休 館 日：毎週月曜日
観 覧 料：一般／ 1,000（800）円
高校・大学生、65 歳以上／ 700（560）円
※（ ）内は 20 名以上の団体料金
主　　催：郡山市立美術館
後　　援：ブリティッシュ・カウンシル
協　　力：株式会社東北新社
特別協力：アードマン・アニメーションズ
企画協力：東映株式会社

テレビシリーズ「ひつじのショーン」壁なし納屋
オリジナル小道具・パペットによるアニメーションセット
© and TM Aardman Animations Ltd. 2022

土 橋 醇 展

パリ、湖南―幻想を追って

土橋醇《火の誕生》1956（昭和 31）年
油彩・キャンバス　神奈川県立近代美術館蔵

土橋醇《喜望の星（幻想の星）》（旧郡山市立赤津小学校体育館壁画のための下絵）
1977（昭和 52）年　グワッシュ・紙　当館蔵

当館では、パリを中心に活躍した土橋醇を戦後日本の前衛を代表する画家のひとりとして位置づけ、これまで常設展示で何度も紹介している。だが、彼の全体像は謎に包まれたままだった。

土橋醇は１９０９（明治42）年８月17日、日本画家の土橋華城の長男として、東京小石川に生まれた。父親を早くに亡くした彼は、父親の生まれ故郷である現在の郡山市湖南町赤津へ転居。赤津尋常小学校、福良尋常高等小学校高等科を経て上京し、苦学して１９３３（昭和８）年、東京美術学校油画科へ入学した。同級生には三春町出身の鎌田正蔵といわき市出身の若松光一郎、それに矢吹町出身の木村茂郎がいた。同学年同科に福島県出身者が４人もいたことは極めて珍しいことだった（木村茂郎だけ消息不明）。

１９３８（昭和13）年に美校を卒業し、すぐにパリへ赴くも、第二次世界大戦の勃発で２年後に帰国。戦後再渡仏し、藤田嗣治をはじめ菅井汲、田淵安一、堂本尚郎、佐藤敬らとともにパリにあって、最先端の前衛美術運動の真っただ中で制作した。彼は、実景をもとにした抒情的抽象ともいうべき画風で、パリを拠点に個展を開催して高い評価を得る。

晩年は赤津に戻り、アトリエ「愚魚庵」を建て、１９７７（昭和52）年にそこで母校である郡山市立赤津小学校の体育館に壁画《希望の星》を制作した。11月４日に完成披露の式が開催された際には、在学中の児童たちはもとより、地元の多くの参列者があったという。湖南からの猪苗代湖、磐梯山の眺めを、当時の土橋のトレード・マークである鉄板と油絵具で描いた縦２m、横5.1mの巨大な壁画には、猪苗代湖の砂も使われた。だが、まさに故郷湖南のための壁画が完成した翌年の10月30日、アトリエからすぐの土橋家の本家である土橋商店（当時）へ歩いている途中に倒れ、帰らぬ人となる。69歳だった。

今回の展覧会では、１９５０年代から60年代の彼の代表作はもちろん、それ以前の作品に加え、最晩年の壁画《希望の星》のスケッチや下絵もできる限り紹介し、土橋醇の全画業を回顧する。そして彼の父で、東京美術学校日本画科を首席で卒業したものの、28歳の若さで没した土橋華城の作品も公開する。

（菅野洋人）

土橋醇《はかりのある室内》
1952（昭和 27）年
油彩・キャンバス　豊島区蔵

企画展

土橋醇展　パリ、湖南―幻想を追って
2023 年 9 月 2 日（土）～ 10 月 22 日（日）

開館時間：午前９時 30 分～午後５時（入館は午後４時 30 分まで）
休 館 日：毎週月曜日（9 月 18 日（月・祝）、10 月 9 日（月・祝）は開館、各翌日休館）
観 覧 料：一般／ 800（640）円
高校・大学生、65 歳以上／ 500（400）円
※（　）内は 20 名以上の団体料金
中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料
主　　催：郡山市立美術館
助　　成：令和５年度芸術文化振興基金

近代版画事始め ～明治に想いを馳せる時～

野口和洋（版画家）

昨年、開館30周年を迎えた郡山市立美術館で、記念の展覧会となる『記録する眼　豊穣の時代　明治の画家　亀井至一、竹二郎兄弟をめぐる人々』が開催されました。展覧会は、明治初期、亀井兄弟や高橋由一などの油彩画をはじめ、亀井至一を中心に、玄々堂（註）で刷られた数多くの石版画が展示され、黎明期の石版画を一堂に見ることができる貴重な機会で、見応えのある企画展でした。

今年の6月初め、ワード『石版印刷』がトレンド入りしました。版画用語である『石版印刷』がトレンド入りすることなど、滅多にない事なので驚くとともに、ホットなニュースでした。

なぜ『石版印刷』がトレンド入りしたかというと、現在、放送中のNHKドラマ『らんまん』で、植物学者牧野富太郎（まきのとみたろう）をモデルにした主人公槙野万太郎（まきのまんたろう）が、植物に関する論文を植物のイラスト入りで「植物誌」を発行すべく、自ら描いた植物画を石版で刷るために、印刷屋に願い出て『石版印刷』を修行するというストーリーが放送されたからです。技法的にあまり知られることのない石版画というものがわかりやすく映像化され、石版印刷の習得に奮闘する主人公万太郎の姿が感動を呼び、トレンド入りしたようです。

これは、牧野富太郎が石版印刷を修行した事実によるもので、明治17（1884）年、高知県から上京した22歳の牧野が、当時神田一ツ橋にあった東京大学に出入りを許され、研究を重ねた明治20（1887）年頃、『植物学雑誌』を創刊するため、神田錦町にあった石版印刷屋太田義二（おおたよしじ）の工場に1年余通い、石版印刷術を修得します。富太郎は、将来故郷の高知でも印刷することを考えていたようで、この時石版印刷機を購入して高知に送っています。こうして『植物学雑誌』は明治20（1887）年2月15日、東京植物学会の機関誌として創刊されます。

さらに、牧野は、明治21（1888）年11月12日『日本植物志図篇』を自費出版していますが、自叙伝によれば、原図を日本橋呉服橋の刷版社で石版印刷し、神保町敬業社から発行とあります。前述した玄々堂も日本橋呉服橋にあったのですが、もしかすると、牧野富太郎自身、高橋由一や亀井らとすれ違っていたかもしれません。この時代は、まさに石版印刷の隆盛期でした。

さて、私が取り組んでいる木口木版画ですが、合田清によって、その技法がフランスから伝えられるのですが、合田が、洋画家の山本芳翠と共に帰国したのが明治20（1887）年7月12日。翌年の明治21（1888）年3月、芝区桜田（現在の港区）に、山本芳翠と生巧

亀井至一（画）
《（美人弾琴図）》（『東京中新聞』第 2352 号附録）
1890（明治 23）年　石版・紙　当館蔵

館を設立します。郡山市立美術館にも収蔵されている《磐梯山噴火真図》（山本芳翠画／合田清刻）は、明治21（1888）年8月1日、東京朝日新聞の付録として制作されています。明治20年代、木口木版画は、大日本印刷の前身である秀英舎の佐久間貞一（さくまていいち）の援助により、印刷の進歩とともに、一気に全盛期を迎えます。

この時系列を見る時、合田清がフランスから、もう少し早く日本に帰国していたら、木口木版画が牧野の眼にとまり、木口木版画で植物画が刷られていたかもしれない…、と思うのは飛躍し過ぎかもしれませんが、ロマンを感じる楽しい妄想です。

いずれにしても、『らんまん』で描かれていたように、明治維新によって、すべての価値が一変したこの時代、西洋からもたらされた版画の技法は、明治の名もなき職人たちが汗水流しながら、手探りで技法を身につけ、版を作り、一枚一枚ていねいに刷られたものばかりです。

この時代の作品群は、ほとんどが紙ですから、すでに100年以上が経過して経年変化によって黄ばみ、古臭いものに見えるかもしれませんが、あらためて明治の人たちの尽力を思う時、まったく違って見えてくるのではないかと思います。郡山市立美術館では、これらの関連作品を常設展で見ることが出来ます。ぜひ、ご覧になって明治の熱き時代に想いを馳せてみてはいかがでしょうか。

石版画印刷機と石版

（註）

玄々堂は、亀井至一、竹二郎兄弟が籍を置いた銅石版印刷を行う工房。

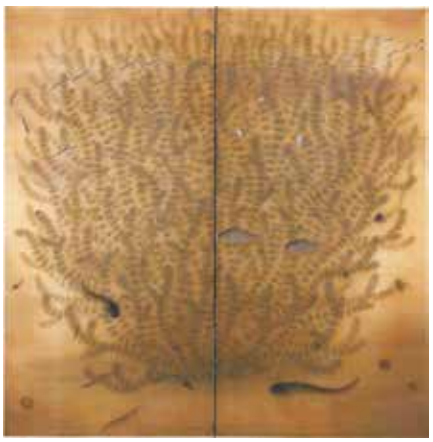
初代玄々堂・松本保居は、家業の数珠製造から転じて銅版画による京都名所図や諸藩の藩札を手がけていたが、二代目・松田緑山（敦朝）が新政府の官札製造を請け負うこととなり、1869（明治2）年に東京に居を移し、太政官札や切手、有価証券を銅版で制作した。大蔵省が技術刷新のため、1874（明治7）年にエドアルド・キヨソネを招聘したことに憤り、緑山は大蔵省御用の座を降りる。しかしすぐに緑山は、石版画の印刷機と参考書籍をロンドンより取り寄せ、試行錯誤ののち石版印刷に成功、翌1875（明治8）年、新たにさまざまな版画を手がける玄々堂を開業した。

山本芳翠（画）　合田清（刻）
《磐梯山噴火真図》（『東京朝日新聞』明治 21 年 8 月 1 日第 1095 号付録）
1888（明治 21）年　木口木版・紙　当館蔵

常設展示室より

今回の常設展示室2では、「近代の日本画」を特集しています。自然や歴史をテーマにした作品が多い中で、注目の作品は、なんといっても三島町出身の日本画家・酒井三良の作品《春池小景》でしょう。当館では、郡山市や福島県ゆかりの作家の作品を多く収集してきましたが、三良の作品は昨年度初めての収蔵となりました。

本作には、フナやドジョウ、タニシやゲンゴロウなどの水辺の生き物が、水草に共棲している様子が描かれています。暗い画面に見えますが、よく見ると、くるくると泳ぎ回る魚の群れや、タガメが今まさに獲物を捕らえようとする瞬間が描かれていて、非常に楽しい作品であることがわかります。川遊びが好きなお子さまや、自然を愛する大人の方にも、水面下の小世界をのぞき込むような気持ちでこの作品を鑑賞していただければ幸いです。



酒井三良《春池小景》1926（大正 15）年
絹本墨画淡彩、二曲一隻屏風　当館蔵

ところで、ほかの福島県内の美術館などで三良の作品をご存知の方は、「えっ？」と驚かれたかもしれません。彼は故郷・福島の農村に生きる人々の暮らしや自然といった、田園賛美的な画題を描き続けた人でした。県立美術館所蔵の《雪に埋もれつつ正月はゆく》は、その代表作と言えるでしょう。こうした温かな濃彩と詩情豊かな主題の作品と比べると、本作はむしろ、繊細な線と淡彩によって、生き生きと蠢（うごめ）く魚や虫、あるいは水草の揺らめく様子を写実的に捉えようとしており、彼の画歴においても異色作であると言えます。

〈参考図版〉
酒井三良《雪に埋もれつつ正月はゆく》
1919（大正 8）年　絹本着色、二曲一隻屏風
福島県立美術館蔵

実はこの頃の三良は、当時最年少で日本美術院の同人となったプレッシャーからか、各地を放浪しながら孤独に作品を制作する日々を送っていました。苦悩しながらも、「興味のない対象に向かっては決して写生の筆を執れない」（『塔影』第13巻9号〈昭和12年9月〉）という信念のままに、自然を散策する中で身近な生き物たちに関心を寄せ、新しい表現を模索したのかもしれません。その意味では、本作にも三良らしさが表れていると言えるでしょう。

（鈴木えみこ）

常設展示のご案内

2023 年 10 月 1 日（日）まで

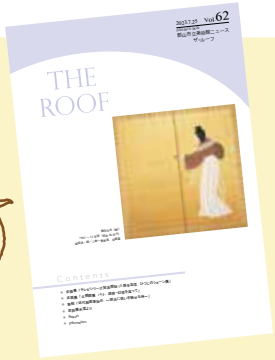
展示室 1　版画にみる絵画のエッセンス

展示室 2　近代の日本画

展示室 3　イギリスのポップアート

展示室 4　明治の版画／ドレッサーの仕事

表紙の作品



梶田半古《蝶》

1907 ～ 12 年頃（明治 40 年代）　岩絵具・絹／二曲一隻屏風
当館蔵

梶田半古（1870－1917）は、明治生まれの日本画家です。明治30年頃からは、本の挿絵の仕事も積極的にこなし、余白を大胆に使った構図や、明るく抒情性に富んだ新時代の表現で一世を風靡しました。本作にも、そんな半古独自の描き方がよく表れています。

Report

ワークショップ「木口木版でつくる蔵書票」
2022年12月4日（日）、10日（土）、11日（日）、17日（土）

場所：創作スタジオ

講師：野口和洋さん（版画家）

ワークショップ「テンペラで楽しく描こう！」
2023年2月11日（土）、12日（日）、18日（土）

場所：創作スタジオ

講師：齋藤ナオさん（画家）

ワークショップ
「岩絵具で描く－岩絵具に親しみ、膠を知る」
2023年3月18日（土）、19日（日）

場所：創作スタジオ

講師：中村亞都子さん（画家）

郡山市立美術館開館30周年記念
文化講座「中本マリ　with　福井ともみ　ジャズ・ライブ」
2023年3月4日（土）

場所：階段ホール

出演：中本マリさん
（ボーカル）、
福井ともみさん
（ピアノ）

郡山市立美術館開館30周年記念
文化講座
「吉野直子ハープ・コンサート
－ジェーンとともに－」
2023年3月25日（土）

場所：階段ホール

出演：吉野直子さん
（ハープ）

郡山市立美術館開館30周年記念
ミュージアム・コンサート「女性作曲家たち～その響き」
2023年3月23日（木）

場所：階段ホール

出演：下山静香さん（ピアノ）、竹内永和さん（ギター）、yumiさん（フルート）、秋本悠希さん（ソプラノ）ほか

開館30周年記念展2「ヨハネ・パウロ2世美術館展」関連

会期：2023年1月28日～2023年3月26日

講演会「魅惑のほほえみ―肖像画に描かれた女性たち」
2023年2月19日（日）

場所：多目的スタジオ

講師：平川佳世さん
（京都大学教授）

講演会「聖母と母性の美術史」
2023年3月11日（土）

場所：多目的スタジオ

講師：宮下規久朗さん
（神戸大学教授）

Information

第 21 回　風土記の丘の美術展
―郡山市内の小学生による作品展―

会期：2023 年 7 月 22 日（土）～8 月 18 日（金）
主催：郡山市立美術館・郡山市小学校造形教育研究会
場所：美術館ギャラリー（入場無料）

市内を 4 つの地域に分けて、週替わりで展示します。
展覧会とあわせてお楽しみください。

第 1 期：7 月 22 日（土）～7 月 28 日（金）
芳山、橘、小原田、開成、芳賀、桃見台、赤木、薫、富田、富田東、富田西、大槻、白岩

第 2 期：7 月 29 日（土）～8 月 4 日（金）
東芳、桜、桑野、大島、緑ケ丘第一、小山田、大成、朝日が丘、宮城、海老根、御舘、西田学園、湖南

第 3 期：8 月 5 日（土）～8 月 11 日（金）
日和田、高倉、行健、行健第二、明健、小泉、行徳、安積第一、安積第二、安積第三、永盛、柴宮、郡山ザベリオ学園

第 4 期：8 月 12 日（土）～8 月 18 日（金）
穂積、三和、多田野、河内、片平、喜久田、熱海、安子島、守山、御代田、高瀬、谷田川、金透

第 20 回　風土記の丘の美術展　展示風景

TOPICS

juju
130CAFE
ジュジュ イチサンマル カフェ

営業時間／ 11:00-17:00
電　　話／ 024-942-2250

【新ドリンクメニューのご案内】

- 珈琲フロート　¥630 円
- カフェラテフロート　¥660 円

自家焙煎コーヒー豆をハンドドリップし瞬間冷却した濃厚ですっきりした味わいのアイスコーヒーに大玉のバニラアイスをのせたカフェの定番メニュー珈琲フロート。
人気のカフェラテにバニラアイスをのせたまろやかなカフェラテフロート。

甘くてクリーミーなアイスが溶けていく味わいの変化をデザート感覚でお楽しみいただけます。

★当カフェのドリンクメニューは全てテイクアウト可能です。

メニューや料金、営業時間は予告なく変更となる場合がございます。
あらかじめご了承ください。

郡山市立美術館
Koriyama City Museum of Art
〒963-0666　福島県郡山市安原町字大谷地 130-2
TEL.024－956－2200　FAX.024－956－2350
https://www.city.koriyama.lg.jp/site/artmuseum/
敷地内禁煙
発行日／令和 5 年 7 月 25 日

FSC www.fsc.org ミックス 紙｜責任ある森林管理を支えています FSC® C011278
VEGETABLE OIL INK
紙へリサイクル可
この印刷物は、適切に育まれた森から生まれたFSC認証紙と、環境にやさしい植物油インキを使用しています。